

グ リ ッ ト
G R I T (やり抜く力)

2 学期の終業式を迎えました。平成 28 年も残りわずかです。皆さん、それぞれに良い年を迎えていただきたいと思います。

さて、第 3 号です。1 号でも、2 号でも、「理想を高く (教育目標より)」「一流になる」「本物になる」こととの関連で書きました。今回も同様です。

先日、書店で「G R I T～平凡でも一流になれる『やり抜く力』～」という青表紙の本を手に入りました。2016 年 11 月 15 日第 1 刷発行とありますので、最近の本です。その隣には、もっと目立つ積み方で「G R I T やり抜く力～人生のあらゆる成功を決める『究極の能力』を身につける～」という白表紙の本があります。こちらは、2016 年 9 月 8 日第 1 刷発行とあります。どうして地味に積んである方を先に手にしたかと言うと、青表紙の「一流」という単語に目を奪われたからです。結局、白表紙の方を購入し、斜め読みし、後日、青表紙の方も購入し、斜め読みしました。(私の読書は、積読 (つんどく (積んで置く)) 専門。つまり、買うだけで読まない。今回は、頑張っ、て、「斜め読み」したわけです。)

どんな内容かと大胆かつ乱暴に言い切れば、「人生のあらゆる成功に必要なのは＝どのような世界であれ一流になるために必要なのは、G R I T (やり抜く力) であり、知能や才能ではない」ということです。「G R I T (やり抜く力) とは、『情熱と粘り強さ』のことであり、後天的に伸ばすことができるものである」ということです。

ここからは少し自分に引き寄せて書きたいと思います。

私は自分のことを能力に恵まれた人間だとは思っていません。では、G R I T でここまで来たかと言うと、幼い頃の習い事から、中高大の部活動とやり抜いたものは一つもありません。あっ、一つだけありました。大学時代のアルバイト、これだけはやり抜きました。そして、未だにやり続けているのが先生業。ですから、大変低レベルな G R I T ではありますが、私の G R I T は、先生業によって鍛えられたということでしょう。

「知能・才能は関係ない」とあります。幼い頃の知能・才能が高くとも、G R I T が育たなければ一流にはなれなせん。知能・才能にあぐらをかけば、「天は二物を与えず」、「天は一人の人間に、いくつもの長所や才能を与えてはくれない」ということになります。

さて、それで私が能力に恵まれていない話に戻ると、私には極端に人並み以下の能力と人並み以上の能力があるように思っています。そして、その両方が先天的だったわけではなく、先天的には、人並みの部分と人並み以下の部分があったのだろうと思っています。

で、これでは小中高と生き抜くのに不便なので、どうしたら良いかと言うと人並み以下の部分を人並みにすればいいわけですが、それが私にはできなかつた。G R I Tが低いので。その代わりに人並みの部分を無意識のうちに伸ばし続けて、人並み以上にした。そして、今、その人並み以上の部分を前面に出して、生き抜いているわけです。これはこれで、やはり低レベルではありますが、「G R I T (やり抜く力)」なのかと、「生き抜く力」なのかと思っています。

勉強やスポーツではできなかつた「やり抜く」ことが、仕事ではできた。無自覚に、仕事を通して、G R I Tを伸ばしたわけですが、これが意図的にできる人たちが一流なわけです。(従って、私は一流ではない。しかし、皆さんには、一流を求めます。「出藍の誉れ／青は藍より出でて藍より青し(弟子が師匠の学識や技量を越えるということ)」です。)

これが意図的にできるようになると、私のように「短所カバーの必要性に迫られて、無意識のうちに長所を伸ばす」ということではなく、短所そのものを克服し、長所に変えてしまいます。

意図的な練習(学習)とは?例えば読書はどうでしょう。読書を通してG R I Tそのものを鍛えることはできても、個別の課題を克服するための意図的な方法として、読書は優れた方法とは言えません。(これは、読書の素晴らしさを否定するものではありません。読書は、G R I Tや課題克服とは無関係に素晴らしい力を読む者に与えてくれます。)

私は高校1・2年の2年間、勉強をさぼってしまいました。しかし、どうしても大学に行きたい。しかし、問題は解けない。不安です。浪人することは考えられませんでした。私のような意志薄弱な人間が浪人などできるはずがないと思っていました。不安から逃れるために、予備校と参考書で1日を埋めました。高校で授業を受け、予備校で授業を受け、残った時間は参考書を読書する。意図的に学習する時間は全くありません。読書することにより、解けない不安から解放される。これを最後まで続けました。受かるはずがありません。(結果的には、1校しか受けなかつた国文科だけ受かり、今の私があります。)私の勉強法は、漢字の練習に例えるならば、最初に一通り解いて、書けない漢字をリストアップし、書けるようになるまで練習するという意図的な方法を取らず、もともと書ける漢字を何回も書いていたようなものです。自分が抱える課題から逃げていたということです。

さて、皆さん。皆さんも、私ほどひどいレベルではないにしろ、「意図的な練習」から逃げていませんか。イチロー選手も錦織選手も一流の職人も、皆、課題を洗い出し、一つひとつ意図的に解決していったのです。だから、すごく疲れる。だから、長時間はできない。よって、睡眠時間も確保できるのです。そして、この「意図的な練習」を可能にするのが「G R I T (やり抜く力)」なのです。そして、G R I Tは伸び続けます。だから、大器は例外なく晩成するのです。早熟の大器などあり得ない。早熟とは知能・才能に恵まれたがためにG R I Tが育たなかつたということです。

人生は長い。年を取るって、素晴らしい。だって、年とともに「G R I T (やり抜く力)」が高まり、いい仕事ができるのだから。皆さんがそれぞれの人生で一流になることを祈念してやみません。

(受験生の皆さん。まずは、意図的に受験をやり抜いてください。現役生は、試験最終日まで伸び続けます。意図的に学習してください。)